

令和 5 年度横浜美術館 指定管理業務評価表（外部評価）

	太下委員	垣内委員	笠原委員	丸山委員	吉富委員
I 文化事業	<p>【評価する点】</p> <p>大規模改修という時期でありながら、「第 8 回 横浜トリエンナーレ」に向けた準備を進め、コロナ禍をはさんで 6 年ぶりに祝祭感のあるイベントとして実現できたことは特に評価したい。</p> <p>また、同組織委員会との協議を経て、「こどもアートひろば 『はらっぱ』」を開設し、複数のワークショップを実施したことで、これまで美術館に足を運んだことがない層にリーチできた成果は大きい。</p> <p>その他、休館中にも関わらず 33 団体と連携して各種プログラムを実施した点も大きな功績であると考える。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>文化観光拠点としての取り組みはこれからの課題。</p> <p>文化庁の補助事業を活用して「デジタルアーカイブ」の整備を進めているが、たとえば、どの画像が自由利用できるかの表示など、利用者が「デジタルアーカイブ」をもっと活用するような整備をしていただきたい。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>大規模改修に伴う長期閉館中でありながら、国の補助金を得てコレクションにかかる解説などのアーカイブ関連事業を積極的行ったこと、多くの美術品の寄贈による収集ができたこと、さらにはトリエンナーレを無事開催したことなど、高く評価できる。</p> <p>また、閉館中は、美術館の立地という地理的制約を超えて、市の多様な層に働きかける絶好の機会でもある。その意味で、観光や文化の団体と連携して共通のプラットフォームを設けたことも今後につながる動きと思われる。また、子育て世代にターゲットを当てて美術館への来訪を促す試みも将来に向けた事業として必須のものであり、引き続き展開していくことを期待する。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>横浜市は人口も多く、活動圏が東京などの首都圏である層も一定程度存在すると思われる。このような状況の中で、横浜市民に対して美術館の存在感や貢献度を高めていくのは容易なこととは思われないが、多様な層への訴求の在り方をぜひ検討してもらいたい。コロナ禍で経済的格差もかなり顕著になり、なかなか美術館へ足を運ぶことができない層もあると思われる。また、閉館中なので十分実施できなかったと思うが、来訪者のセグメントや来訪理由なども分析したうえで、必要な方策をとっていただくことを期待する。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none">横浜美術館の作品収集の基本方針に合致した企業からの大規模な寄贈を無事に受け入れたこと。国内外の美術館やアーティストと連携しながら、翌年度以降の展覧会の準備を確実に進めていること。非常にレベルの高い「横浜トリエンナーレ」の開催にこぎつけたこと。教育普及事業やボランティア研修、連携事業など、充実している。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none">いまだに安定した作品購入がなされていないことは、日本の顔となっている「横浜市」の美術館として恥ずかしい。国内外からも高い評価を受けている「横浜トリエンナーレ」をただの一過性のイベントにしないためにも、展覧会と作品収集を結び付けて実施する、美術館としてオーソドックスな作品購入を早々に実施してほしい。ブロックバスター展を開催して入館者数と収益を上げる方法が、健全な経営であるかのような考え方は見直すべき時に来ているのではないか。なぜ美術館が「公立」で運営されているのか、「公共性」とは何かを抜本的に考えて、美術館が開催すべき展覧会のみを実施してほしい。そうした面から考えると特に年間 4 0 万人の目標は必要がない。	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none">リニューアルオープン後に向けて、準備作業が進められるとともに、仮事務所・ホールとしての PL0T48 が「やどかりプログラム」等で活用されました。PL0T48 での制作の公開・解説等の催しや改修工事中の美術館の工事用フェンスを利用した作品展示等、展覧会を代替する事業活動が継続的・計画的に展開されました。休館中の美術館の事業活動の広報にとどまらず、若手アーティストの認知度を高めることにもつながるのではないかと思います。第 8 回横浜トリエンナーレの開催準備を進め、滞りなく年度末である 3 月から開催しました。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none">PL0T48 で行われた「やどかりプログラム」等で得られた成果、経験をリニューアルオープン後の事業運営で活用することを期待します。とくに、PL0T48 での作品制作のライブ中継解説が非常に新鮮でした。こうした取組を、さらに推進していただきたいと思います。	<p>【評価する点】</p> <p>企業等からの作品受贈が増え、新収蔵品点数が年間 1,000 点を越えたとのこと。未来へ向けての「持続可能」な活動と「健全な経営」運営を通して、日々、信頼を紡いでこられたからこそと市民の一人として感謝を込めて評価させていただきます。</p> <p>第 8 回横浜トリエンナーレの開催・運営も高く評価いたします。多様な市民の声が聞こえてくるような展示・会場づくりに深い感銘を受けました。また「やどかりプログラム」や「横浜【出前】美術館」は、市民により身近な美術館としての印象付けをなされた事業でした。美術と一般市民をつなぐ取り組みとして「優しい日本語プロジェクト」も評価します。ユニバーサルデザインフォントの使用などを含め来館者の多様性にも配慮しながら、アートの魅力を伝える方法を今後も試行されますよう希望します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>令和 5 年度の強化項目であった「多様性」「みなとモデル」「持続可能な活動」は、継続して取り組まれることを期待しています。美術図書室への誘導や新たな活用方法もご検討いただき、知れば知るほど推したくなる美術館となるように期待しています。体験の貧困が社会課題となる中、10 代をターゲットとした「ユースプログラム」は大切な取り組みだと思っています。</p>

令和５年度横浜美術館 指定管理業務評価表（外部評価）

	太下委員	垣内委員	笠原委員	丸山委員	吉富委員
Ⅱ 施設運営	<p>【評価する点】</p> <p>グランドギャラリーにおける「じゅうエリア」の設定と、一体的な運用に向けた準備を着実に遂行した点は評価したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>欠員となっている学芸グループのチームリーダーの確保が表面的な課題であるが、より深い課題として、職員の待遇改善や働き方改革を財団本部及び横浜市と一体となって進める必要がある。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>トリエンナーレの運営と実施を無事果たしたことは評価できる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>トリエンナーレも回数を重ねてその性格やミッションも変化してきたように思われる。これらの変化が来訪者にどのような変化をもたらしているのかも含め、検証することが求められる。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>・新たな美術館増を示すミュージアム・メッセージを公表し、認知に努めたこと。</p> <p>・広報渉外および美術図書室に各１名増員したこと。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・美術館事業の核心を担う役割である学芸グループ・チーム・リーダーの欠員は厳しい。</p> <p>・多くの職員が常勤なのは大いに評価すべきだが、一方で、教育普及や図書室運営の事務補助員が臨時雇用職員なのは適切かどうか検討するべき。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>・リニューアルオープン後の展覧会スケジュール等の情報の発信が活発に行われていました。美術作品の制作や鑑賞のライブでの解説を担当する等の新しいスタイルでのキュレーションを担いうる専門職員の層が、新規採用によって厚くなったように思います。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・じゅうエリアについての情報が、様々な広報活動を通して、来館者、みなとみらい地区来訪者に浸透していくことを期待します。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>じゅうエリアの設定は美術館へのハードルを一気に下げた感じがします。トイレや授乳室も使用できるという案内表示も子育て世代の方々へのエールとなります。美術館のある街がほっとできる空間となり、不安定な子育て期に安心して心を整える場所となるように切に願います。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>車イスやベビーカーでも移動可能な動線や多様な人々の目線も意識した施設運営を期待しています。言葉で見る絵画展など視覚障害の方々にも楽しんでいただけるような運営の工夫も期待したいです。</p>
Ⅲ 施設管理	<p>【評価する点】</p> <p>計画通り実施していると評価できる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>横浜市では公共施設（文化施設）の長期修繕計画を策定しているのであるか。</p> <p>設置者として、長期的な管理の担保を明示する必要がある。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>特段の問題なく管理運営がなされているものと理解。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>施設の立地もよく、利便性も高いことから、夜間利用や美術館活動以外のイベント開催等も含め、様々な形で有効利用されることが望ましい。もちろん、利用に関しては、コストやミッションとの関係も考慮する必要があるだろうが、観光や地域の関連団体との連携の先に見える可能性もあると思われる。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>・大規模改修を経て、事務所の移転などを瑕疵なく進めたこと。</p> <p>・保守点検を計画通り進めたこと。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・保守維持管理は地味だが重要な仕事であり、時間も手間もかかる。こうした仕事が適切に実施されるために体制ができているか検討してほしい。</p> <p>・カーボン・ニュートラルの観点から、会議のペーパーレスやオンラインでの決裁、多様な働き方を推進するための、在宅制度の充実などに取り組んでほしい。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>・PLOT48からの移転、外部倉庫での作品等保存管理等が計画的に進められました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・増設・整備された収蔵庫の効率的な使用に取り組んでいただきたいと思います。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>大規模改修の中、事務所移転や収蔵品の管理等、滞りなく進められたことを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>「市民の交流や文化活動の拠点としての美術館」の見える化を希望します。夜間展示や音楽フェス、各種イベントと連携しての広場活用など、人々が足を止め、思いを共にする場となれば、美術館がよりクリアに見えてくるのでは。</p>
Ⅳ 長期休館中の業務	<p>【評価する点】</p> <p>高齢者施設でのプログラムは興味深い。リニューアル後も継続していただきたい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>既に移転済みのため、特になし。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>閉館中は、ある意味美術館が立地する場所の地理的制約にかかわらず、市内の各所に活動を展開できる貴重な機会となる。この機会をとらえて出前講座やアウトリーチの拡充、各種団体との連携を積極的に行ったことは、今後につながる重要な活動と評価したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>上記の活動を通じて見えてきた課題や可能性を整理したうえで、開館後の活動に生かしてもらいたい。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>・オンラインでのプログラムを多く実施したこと。</p> <p>・出張講座や作品貸し出し、病院や高齢者施設などの連携を進めたことは素晴らしい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・高齢者施設との連携、子育て世代に向けたプログラム等、社会が必要としている美術館事業のさらなる充実とそれを実施する体制を整えること。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>・「やどかりプログラム」等の催しが効果的に行われたと思います。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・長期休館前に積み重ねられてきた国内外の美術館との連携・交流が、新型コロナ禍もあり、ペースダウンした可能性はあると思います。指定期間第２期までの実績、経験を活かし、連携・交流活動を発展させることを期待します。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>コレクション画像等のウェブサイト上での公開拡充や横浜出前美術館等のアウトリーチ活動を積極的に行い、アートへの関心を更に呼び起こした努力を評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>一般市民にとって美術館のドアは、まだまだ重く感じられています。休館中に取り組んだ各団体との連携プログラムは、気軽に開けやすいドアに変える効果があったように思います。長期の休館期間の立ちどまり、振り返りの時間は、美術館の魅力再発見へとつながったのでは。</p>

令和５年度横浜美術館 指定管理業務評価表（外部評価）

	太下委員	垣内委員	笠原委員	丸山委員	吉富委員
V 収 支	<p>【評価する点】</p> <p>可能な範囲で努力をされていると評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>今後、文化観光拠点として活用されることで、結果として収入増に寄与することも期待したい。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>外部資金を獲得するとともに、美術品収集にあたって大きな寄贈を受けることができたのはこれまでの活動の成果であり、それによって得られた社会的信頼であると言ってよい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>かなりの予算規模で展開する大きな美術館であり、人件費も大きく、予算額に見合った活動成果が期待されていると思われる。認知度については折に触れ言及があるが、より詳細な来訪者プロフィールや市民意識などに関するデータも必要であろう。今後の戦略的展開に当たって、一定程度の市場分析も期待したいところである。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>・適切に実施した。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・文化庁等の補助金に依存した予算枠組みは適切ではない。美術館を始めとする、教育・福祉・文化への予算規模は、市民の文化度も直結する。適切な増額を望む。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>・指定管理料に含まれる作品等移転費の範囲内で収蔵作品等の外部倉庫への移転・保管が行われました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・文化庁補助金受給、地元金融機関の記念事業にともなう寄付の獲得という今年度の実績を、今後にも生かしていただきたいと思います。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>協賛金や補助金等の獲得など財源の確保に努力されたことを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>美術館への関心を高めるためにも、遺贈寄付や冠基金、募金などの呼びかけも検討余地があるのでは。</p>
VI 及 び 業 務 評 価 VII そ の 他	特になし。			とくにありません。	高齢者施設等との連携に加えて、子ども・若者支援のNPOとの連携を考慮してはいかがでしょうか。 子どもの約7人にひとりが貧困状態にあるといわれ、不登校の児童数も増加している中、学校や家庭へのアプローチだけではなく、子ども支援のNPOへも情報提供をと思います。アートという心の栄養を、多くの子どもたちに提供するこころ食堂が美術館となれば、未来のアーティスト育成にもつながるのでは。
総 括	<p>令和５年度指定管理者業務は大規模改修中というイレギュラーな時期の評価となるので、本格的な評価は次年度以降になると思料。</p> <p>一方で、今回の評価は、いかにも行政による評価という感じであり、こうした評価を継続していても、横浜美術館が抜本的に改善されるという予感を感じられない。</p>	<p>閉館中であっても様々な活動を実施したことは高く評価したい。また、美術品の寄贈も多く受け入れており、社会的な信頼の高さを示すものと思う。ただ、かなり大きな予算が計上されており、この金額に見合った成果が上がっているのかについては、今後中長期で問われてくるのではないだろうか。また、現時点では、長期閉館中なので仕方ないのかもしれないが、来訪者数だけでなく、そのプロフィール（年齢や居住地、性別など）、来訪動機といった、今後の戦略的展開に向けて最低限必要と思われるデータが全く提示されていないため、踏み込んだ評価がしにくい。</p> <p>また、開館以降の入館者数の推移を踏まえると、企画展の誘客力が年間入場者数に大きく影響することが見て取れる。今後の目標である年間40万人の入館者数の妥当性については現行資料のみでは判断しにくい。</p>	<p>・指定管理者制度の枠組みにおける、限られた予算や人員で、創意工夫しながら充実した事業を実施している。しかし、作品購入がいまだに実施されず、今後の展覧会計画においても、「健全な運営」というお題目の下での、美術館を貸し施設としたイベント事業をやらざるを得ない状況は健全ではない。本来であれば専門的な知識と経験を展覧会等の事業の充実に専念すべきところを煩雑な事務作業をせざるを得ないのはせっかくの能力の浪費と思われる。なぜ美術が公立で作られているか、「公共性」とは何かという視点に立って、指定管理者制度は適切かを議論する時期に来ていると思う。</p> <p>・カーボン・ニュートラルの観点から、会議のペーパーレスやオンラインでの決裁、多様な働き方を推進するための、在宅制度の充実などに取り組んでほしい。</p>	<p>・指定期間10年間の初年度である令和５年度は、基本的に工事休館ではありましたが、年度末からのトリエンナーレや令和７年２月の本格的リニューアルオープンに向け、スタートが切られた年度でした。事業目標１～６について、中間年度(令和９年度)、最終年度(令和14年度)の定量的、定性的指標が設定されています。運営に計画性をもたせ、実績を管理、評価する上で有効であると思います。</p> <p>・施設改修に必要な半導体の供給不足という外部要因のため、改修工期が延長されましたが、大きな空白を生じることもなく、リニューアルオープンに向けて様々な活動が進められました。指定管理者が当初の予定を柔軟に調整し、対応された点を評価します。</p> <p>・政策協議会を通じて横浜市の基本政策との連携が図られており、横浜市の代表的な文化施設としてのプレゼンスをさらに高めていただきたいと思います。</p>	<p>「美術と人々を様々な糸口でつなぎ、生きる力を培います」とした事業目標３は、今後もぜひ継続してほしいです。10代の子どもたちの自殺者数が増加傾向にあります。ふと入った美術館で出会った一枚の絵が、闇の中の希望の光となったり、生きようと思える力となったり。人生を変える契機となることも。アートを迷える思春期の子どもたちとつなぐ事業は、市民と共に未来を創造する事業ともいえます。</p> <p>「みなとモデル」とした「多様性」「子どもと子育て世代」のテーマに沿った社会的な動きに連動する企画があれば、美術館の特色がより鮮明にアピールできると思います。11月はオレンジリボンの子ども虐待防止月間、2月は多様性を認め合おう、いじめストップ！ピンクシャツデー月間があります。特に2月は、みなとみらい線や周辺のコスモワールドや市庁舎、県庁、マリントワー、ランドマークタワー等もピンクシャツデーアクションに賛同して、ピンク色に染まります。横浜トリエンナーレのテーマ「いま、ここで生きてる」を日々の中で実践していくことにも、意味があるのではないかと思います。</p>

令和5年度 横浜美術館 指定管理者 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

□:定量的指標 ■:定性的指標を表します。

評価項目			令和5年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業		指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 魅力的なコレクションの形成、活用と未来への継承(事業目標1)	1 魅力的なコレクションの形成と保存	収集作品の提案	■令和4年度に提案した中期の方針に基づき、購入も含めた収集候補作品を提案します。(1-定性①)	実施	実施	収集審査委員会開催(11月)	【成果】 ・収集については、企業からの大規模な作品受贈が実現し、新収蔵品点数が開館以来初めて年間1,000点を超えました。 ・コレクションの活用については、作品解説の公開等の事業を文化庁補助金を活用して計画的に進め、目標を上回る点数を公開しました。 【課題】 ・収集については、毎年度多くの作品を受贈する一方で、作品の購入は4年ぶりに行われた状況です。中期的なビジョンにもとづく計画性・継続性のあるコレクションの形成を実現するために、市が進める文化基金積立のスキームづくりに引き続き積極的に関与したいと考えます。 ・コレクションの活用のうち、作品解説、画像公開の事業については、文化庁の補助事業終了以降(R7～)の継続にあたって、財源確保が課題です。	【評価できる点】 ・大口の作品受贈を実現させ、2,000点に迫る美術作品を収集するなど、作品の購入が厳しい近年の状況下にあってコレクションの充実に努めたことを評価します。 ・大規模改修中から「第8回横浜トリエンナーレ」の準備を進め、着実に開催までこぎつけました。また、「こどものアートひろば『はらっば』」をグランモール公園に面したプロジェクトスペースに開設し、子育て層をはじめ美術館からのアプローチが届きにくかった方々に訴え、横浜トリエンナーレや横浜美術館のアピールにつながったことを高く評価します。 ・文化庁による文化観光拠点計画の補助金を活用し、また長期休館中という状況も効果的に利用しながら、コレクションの作品解説を計画的に進め、目標を大きく上回る実績を達成しました。 ・医療、教育、福祉、観光等の幅広い団体との連携を図るには不利となる長期休館中という条件ながら、30を超える団体と連携して各種プログラムを実施したことは、休館最終年の大きな成果になりました。
		収集作品購入財源確保に向けた取組への参画	■市によるリニューアルオープン記念の作品の購入に向けて積極的に参画します。(1-定性③)	実施	実施	横浜市新作委嘱作品収蔵(3月)		
		美術品および関連資料の保存	■美術品および関連資料を適切に保管します。	実施	実施	R4年度新収蔵品目録完成(3月)		
			■より効率的な美術品の蔵置計画を策定するとともに、さらなる蔵置スペース確保の検討を進めます。	実施	実施	収蔵品の外部倉庫から美術館への移転開始(3月)		
			■損傷が認められる作品について、必要かつ適切な修復措置を個別に検討し、計画的に実施します。	実施	実施	計19点修復(マット層を含む)実施		
	2 コレクションの活用	コレクション活用の可能性の拡張	□作品活用(展示、貸出、特別利用)	30点(特別利用のみ)	222	R5は特別利用のみカウント		【更なる取組を期待する点】 ・大規模改修に伴い、収蔵庫の面積は広がっていますが、作品の増加ベースと収蔵庫のスペースのバランスを勘案しながら、適切な管理を行ってください。 ・社会的な環境の変化により、展覧会の編成は厳しい状況が続いていますが、創意工夫をもって乗り越えていくことを期待します。 ・横浜美術館の令和5年度的首都圏認知率は41.1%となり、長期休館に入る前と比べて5ポイント以上低下しています。その一方で、神奈川県内の認知率は前年度に比べて5ポイント以上増の59.4%となり、改善の傾向も見られています。リニューアルオープンを機に、首都圏、県内、横浜市内それぞれを意識しながら戦略的に認知率向上を図ってください。 ・収蔵作品購入は「横浜美術館」全体の魅力向上につながるため、文化基金積立のスキーム構築について、各グループ丸となったご協力をお願いします。
		データベースの充実	□日英2言語による作品解説の提供	200点	220	R3年度公開分と合わせて469点公開済み		
2 質の高い多様な展覧会の実施を通じた新たな美術の価値の創造と、来館者の裾野の拡大(事業目標2)	1 展覧会の企画・実施(コレクション展)	調査・研究に基づくコレクションの発信	■当館のコレクションの意義や個々の作品の魅力を分かりやすく伝えます。	実施	実施	研究紀要、作品解説執筆、ウェブサイト等での作品紹介等	【成果】 ・令和7年度の展覧会について、第3期提案書に掲げた諸視点を踏まえて展覧会を編成し、それぞれの展覧会について実施に向けた準備を開始しました。 ・上記の展覧会のひとつについては、海外の美術館との共同企画・巡回を視野に入れ調整を進めています。 ・第8回横浜トリエンナーレが予定通り3/15に開幕しました。 【課題】 ・展覧会編成については、集客力のあるメディア展の誘致が、新聞社の経済的状況、コロナ以降の環境の変化、競合する都内美術館の増加などの要因で以前にも増して困難になっていることを大きな課題と捉え、在京メディア所管部署との情報交換の機会をたびたび設け、事業共催の可能性を模索し続けています。また、そのような状況を踏まえつつ、昨今の価値観の多様化、社会情勢や環境の目まぐるしい変動に柔軟に対応しながら、展覧会の質的水準の高さと収支バランスを両立させるスキームを確立することが重要だと考えます。 ・横浜トリエンナーレについては、担う人材や財源などのリソースの安定的確保が課題となっています。	
		多角的な視点の導入	■第三者と連携する機会を設けることにより、コレクションの多面的な特質を引き出し、展示の可能性を拡張します。	実施	実施	MMパークビル壁面投影(通年)		
	2 展覧会の企画・実施(企画展等)	テーマやジャンルの多様性	■幅広いジャンルやテーマの展覧会を立案・実施します。	実施	実施	展覧会立案・準備(通年)		
		国際交流	■アジアやアフリカをはじめとする非欧米圏も含めたグローバルな視点に立った展覧会を立案・実施します。	実施	実施	光州ビエンナーレ(6月)、サンパウロビエンナーレ視察(9月) 第8回横浜トリエンナーレ開催(3月) 東アジアをテーマとした展覧会の共同開催についての他館との協議(6・3月)		
		新進アーティストの創造活動支援	■新進アーティストを支援し、その活動を国内外に発信します。	実施	実施	改修工事壁面を活用したWall Project実施(～7月)		
	3 展覧会の幅広い層への訴求	来館者数の把握に基づく収支バランスの管理、および新規来館者の獲得	□来館者数	-	29,567			
		来館者の満足度評価の把握と展覧会への反映	■会場配布のアンケート調査、ウェブサイト問い合わせフォーム、ボランティアによるヒアリング等から意見を聴取し、館内で情報を共有します。(2-定性①)	実施	未実施	大規模改修工事延期に伴う、展覧会日程等の変更により、検討スケジュールを後ろ倒ししたため。		
	4 横浜トリエンナーレの継続的实施	第8回横浜トリエンナーレの開催	■第8回横浜トリエンナーレに向けた準備を進め、開催します。	実施	実施	第8回横浜トリエンナーレ開催(3月)		

令和5年度 横浜美術館 指定管理者 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

□:定量的指標 ■:定性的指標を表します。

評価項目			令和5年度計画		実施状況			
I 文化事業		指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
3 美術と人々の結節と生きる力の醸成(事業目標3)	1	次世代育成、社会包摂、市民協働等のプログラム	次世代育成のプログラム	■個人や教育機関を対象に、幼児から青年層までを年齢範囲とするプログラム等を実施します。	実施	実施	・こどものアートひろば「はらっぱ」開設(3月) ・ユースプログラム「横浜トリエンナーレを体験しよう！伝えよう！」(3月) ・第8回横浜トリエンナーレ若者支援プログラム	【成果】 ・横浜トリエンナーレ組織委員会との協議を経て会期中通期で利用できる「こどものアートひろば『はらっぱ』」をプロジェクトスペースに開設しました(R6継続中)。美術の広場に面した、新設の空間で誰もが気軽に参加できるドロップイン・ワークショップを実施することにより、これまで美術館に足を運んだことのない層に美術館およびプログラムについて広く周知するきっかけとなりました。 ・「はらっぱ」の運営をサポートするボランティア(キッズサポーター)に対する研修を行いました。 ・文化庁補助金により、これまで積み重ねてきたボランティアによる様々な活動をオンラインツアーとしてアウトプットすることができました。 ・横浜トリエンナーレ出品作家と対話や協働制作により作家や作品を深く知るユース向けのプログラムを実施しました(R6継続中)。 【課題】 ・令和6年度以降の教育普及関連事業、とりわけ「子ども」「子育て」世代、および多様な背景を持つ方々に向けた充実したプログラム実施にあたっては、専門性を持った人材の確保および事業を安定継続するための財源の確保が課題です。
				□次世代を担う、プログラム等への参加者(3-提案者①)	-	5,994		
			社会包摂のプログラム	■アウトリーチに取組みつつ、オンラインを活用したプログラムや双方向性のあるプログラムを提供します。	-	実施	・第8回横浜トリエンナーレ若者支援プログラム(再掲)	
			美術館を支える組織や個人のためのプログラム	■外部有識者会議において年間の実施内容やアンケート結果を報告(3-定性①②)	実施	未実施	外部有識者会議は、事務所移転および美術館再開館準備のため、実施を見送りましたが、専門人材研修や他館へのヒアリング調査を実施しました。	
				■学校や社会教育施設に所属する教育関係者とともにプログラムに取組みます。	実施	実施	・横浜市教員研修(7月) ・社会体験・研修(教員)(7月) ・第8回横浜トリエンナーレ 教員のためのオンライン説明会	
				■ボランティアによるプログラムに取組めます。	実施	実施	・「横浜美術館コレクションと歩く ヨコハマ・アートウォーク」など横浜美術館ボランティアによるオンラインプログラム(5～6月)。 「はらっぱ」の運営をサポートするボランティア(キッズサポーター)に対する研修を行いました。	
4 調査・研究(事業目標4－3)		美術館全体を支える基礎活動としての調査・研究	■展覧会カタログや紀要等を通じて、日英2言語で国内外に成果を公表します。	実施	実施	紀要発行(3月)		
5 地域の施設・団体との連携(事業目標5)		文化観光拠点との連携 カフェおよびミュージアムショップ、メンバーシップ制度の運営	社会教育のプログラム	<美術館を支える組織や個人のためのプログラム>(事業目標3)で実施	(再掲)	(再掲)		【成果】 ・休館中にもかかわらず33団体と連携して各種プログラムを実施しました。 ・文化観光拠点会議を開催し、リニューアルオープン後を見据えた連携について準備を進めました。 【課題】 ・令和5年度「横浜の文化観光・スポーツに係る施設・イベントへの来訪実態」調査により横浜美術館の首都圏(1都3県)での認知率は41.1%であり、目標の50%に向けて認知率の向上に努めていく必要があります。
			人材育成のプログラム	■インターンシップや博物館実習、美術を支える人材育成のためのプログラムに取組めます。	実施	未実施	令和5年度は、事務所移転および美術館再開館準備のため、実施を見送りました。	
			ボランティアのプログラム	<美術館を支える組織や個人のためのプログラム>(事業目標3)で実施	(再掲)	(再掲)		
			首都圏認知率の把握	□首都圏認知率(5-定量①)	50%	41.1%		
			事業による医療、教育、福祉、観光等の幅広い団体との連携	□事業による連携団体等(5-提案者①)	3件	33		
			美術館を支える組織や個人のためのプログラム	■美術館を支える市民等のためのメンバーシップ制度を整備します。	実施	実施	横浜美術館協力会の新制度の決定に伴い、美術館での制度の方向性を検討しました。	
				■企画展に対する協力、協賛、後援といった組織や個人による支援の拡充に取組めます。	実施	実施	R6年度以降の企画展への協力・支援等を得るため、営業活動等の準備を進めました。	
			文化観光拠点との連携	■館内の各組織で文化観光拠点計画に基づく多様な連携を行います。(5-定性①)	実施	実施	文化観光拠点計画R5年度第1回検討会議(8月)	
				■横浜市、横浜観光コンベンション・ビューロー、横浜みなとみらい21と協力して、文化観光拠点計画の取組を推進します。	実施	実施	文化観光拠点計画R5年度第1回検討会議(8月)	

令和5年度 横浜美術館 指定管理者 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

□:定量的指標 ■:定性的指標を表します。

評価項目			令和5年度計画		実施状況		評価	
Ⅱ施設運営	指定管理者提案(要旨)		取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 諸活動の基盤の整備と社会情勢の変化に対応できる施設運営(事業目標4)	1	グランドギャラリー等での事業展開	「じゅうエリア」の設定と一体的な運用:グランドギャラリー	■グランドギャラリーにふさわしい事業の充実を図ります。(5-提案者②)	実施	実施	第8回横浜トリエンナーレでの作品展示	【成果】 ・3月のリニューアルオープンに向けてスケジュールのとり準備を進めるとともに、新たな美術館像を示すミュージアムメッセージを公表するなど、横浜美術館の認知向上に努めました。 【課題】 ・令和7年2月の全館始動を目指し、ミュージアムメッセージなどに込められた思いを実現するべく、ハード面は横浜トリエンナーレでの課題を踏まえた改善に取り組むとともに、事業面でもミュージアムメッセージを表現していくために館内で議論を深め、多様な来館者を迎えるため各種準備を確実に進める必要があります。 【評価できる点】 ・オウンドメディアへのリーチ数は、横浜トリエンナーレの開幕に伴って一気に上昇し、目標を大きく上回りました。 ・ウェブサイトのリニューアルを行ったほか、ミュージアムメッセージにより新たな美術館像を示すなど、様々なアプローチによりリニューアルオープンの機運醸成を図ったことを評価します。 ・「じゅうエリア」の一体的な運営に向けた準備、ミュージアムショップ・カフェ運営事業者の決定など、令和6年11月に予定している部分開室、令和7年2月の全館始動への準備を着実に進めました。 【更なる取組を期待する点】 ・令和6年度にまたがる第8回横浜トリエンナーレの開催を通じて浮かび上がった運営上の課題を整理し、よりよい施設運営や来館者満足度の向上につなげていくことを期待します。 ・専門人員の確保について、中長期的な視野を持ちながら取組を進めてください。
	2	広報における複数の公式メディアの運用とターゲットに適した発信		□オウンドメディアへのリーチ数(ウェブサイトの総ページビュー)(4-定量④)	125万PV	2,152,107		
	3	美術館における諸活動の基盤整備	来館者へのサービス	■施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング(4-定量①)	実施	実施	寛容な環境ルール・インクルージョン層への施策の中間とりまとめ(11月)	
				■来館者満足度(スタッフの対応、使い勝手の良さ、清潔さ)の把握(4-定量③)	再開館後に向けた準備の実施	未実施	大規模改修工事延期に伴う、展覧会日程等の変更により、検討スケジュールを後ろ倒ししたため。	
				デジタル技術への対応	■ウェブサイトでの新技術への対応や、各種ソフトを活用した業務プロセス改善等を実施します。	実施	実施	
2 地域社会のポテンシャル向上(事業目標5)	1	「じゅうエリア」の運用計画	「じゅうエリア」の設定と一体的な運用:運用計画	■「じゅうエリア」の一体的な運用に向けた準備を進めます。	実施	実施	「じゅうエリア」の一体的な運用に向けた活用イメージの中間とりまとめ(11月)	【成果】 ・諸活動の基盤整備として「じゅうエリア」の一体的な運営や来館者サービス向上にむけて館内で検討、準備を進めました。 ・ミュージアムショップ・カフェ運営事業者を決定しオープンに向けた具体的な調整を進めました。 【課題】 ・多様な来館者を迎えるための館内の環境整備が喫緊の課題であると認識しています。そのために、「じゅうエリア」を中心とした運用のあり方について、横浜トリエンナーレで得た成果や課題を踏まえ、グループを横断して議論を深め、具体的方針の策定に着手しています。 ・全館始動後PDCAサイクルを実施していく必要があります。 ・令和6年11月の美術館部分開室と合わせてミュージアムショップ・カフェをオープンできるよう、引き続き運営事業者との綿密な調整・準備が必要です。
	2	カフェ、ミュージアムショップの運営	■市民や来街者の立ち寄り場所となり、作品展示等も行えるスペースとしてカフェを整備します。	実施	実施	カフェ事業者と基本契約締結(6月)		
			■コレクションをモチーフにしたオリジナルグッズを開発し、ミュージアムショップに魅力的な品揃えをもたらします。	実施	実施	オリジナルグッズ試作品納品(6月)		
3 組織的な施設運営(様式11)	1	人材の配置と職能		□施設長(館長)、副館長、経営管理グループ長、広報渉外担当グループ長、学芸グループ長、国際グループ長、教育普及グループ長(各1名)	配置	実施	提案のとおり配置(通年)	【成果】 ・全体統括者である館長、館長を補佐する副館長の下、4つのグループで連携して館の運営に取り組みました。 ・経営管理グループに新たに広報渉外を所管する担当グループ長を配置しました。 ・財団として新採用試験を実施し、次年度の専門職員採用に繋がりました。 【課題】 ・欠員となっている学芸グループチームリーダー1名を含め、専門職員の確保を図る必要があります。 ・限られた人員体制の中で館の効率的な運営を行うため、マネジメントや人材育成が不可欠です。
	2	専門性の高い人材の育成	■各グループの専門性に基づき、長期的かつ計画的に人材を採用し、育成します。	実施	実施	専門職員の新採用配置(4月)		
			■職員各々に応じたOJTについて、年間を通じて実施します。	実施	実施	業務進捗管理シート活用(通年)		
			■文化庁や各専門機関が主催する研修やシンポジウムに、積極的に参加します。	実施	実施	文化庁や各専門機関が主催する研修やシンポジウムに参加(6、7、8、11月)		
			■専門人材育成研修において、各分野の専門家によるレクチャーを企画・実施します。	実施	実施	専門人材研修実施(7月)		
			■国内外の美術館との交流・情報交換を行います。	実施	実施	IEO(国際展覧会オーガナイザー)会議などの機会を通じて海外美術館との展覧会共同企画・巡回に関する交渉を進めました。		
	3	計画的な専門人材の配置(事業目標4-3)	世代交代への対応	□学芸員平均在籍年数(1-提案者②)	10年	17.25年		
4 施設全体の運営に対するアイデア・ノウハウの一層の活用(様式22)	「じゅうエリア」の設定と一体的な運用	運用計画	■「じゅうエリア」の一体的な運用に向けた準備を進めます。(5-提案者②)	(再掲)	(再掲)		【成果】(再掲) 【課題】(再掲)	

令和5年度 横浜美術館 指定管理者 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

□:定量的指標 ■:定性的指標を表します。

評価項目			令和5年度計画		実施状況		評価	
Ⅲ施設管理		指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 保守管理業務(事業目標4)	1	日常点検業務・定期点検業務	■「指定管理者業務の基準」および「指定管理者業務の基準 別添資料」に示された保守点検業務を着実に遺漏なく実施します。	実施	実施		【成果】 ・計画通り、保守点検を実施しました。 ・不具合発生箇所については応急措置を取るとともに、速やかに市への報告を行いました。 【課題】 ・工事瑕疵に当たらない不具合発生箇所について、修繕費用の負担を市と調整する必要があります。 ・今後、通年運営の中で適切な保守点検や維持管理を行っていくために必要な体制を整備することが課題です。	【評価できる点】 ・大規模改修後に発生した設備の不具合等に対して応急措置を行うなど、トラブルを拡大させることなく臨機応変に対応したことを評価します。 ・仮事務所からの移転をスムーズに進め、施設管理上の課題を洗い出しながら、横浜トリエンナーレの開催準備を着実に進めました。 【更なる取組を期待する点】 ・設備運転監視業務委託を成立させるのは、近年の社会情勢を踏まえると難しい状況にあることは理解しますが、できる限り早期の解決を図ることを望みます。
			■設備管理業務日誌での日常点検の通年の記録と共有をします。	実施	実施			
			□法定点検等の実施率(4-定量②)	100%	－	大規模改修工事延期に伴い、竣工引渡日が後ろ倒しとなったため。		
	2	施設及び設備の維持保全及び修繕	■点検を通して発見された軽微な不具合箇所について迅速に対応します。	実施	実施			
			■多額の費用や期間を必要とする修繕箇所や、耐用年数等により対応が必要とされる事案は横浜市に報告します。	実施	実施			
			□施設の管理瑕疵に起因する事故(4-定量①)	0件	0件			
			□修繕予算の執行率(4-定量③)	90%	－	大規模改修工事延期に伴い、竣工引渡日が後ろ倒しとなったため。		
			■横浜美術館の駐車場を安全かつ適切に管理します。	実施	実施			
			■備品等は常に良好な状態に保ち、管理します。	実施	実施			
			□物品管理簿の棚卸を実施します。	年1回	1回			
2 環境維持管理業務(事業目標4)	1	清掃業務	■「指定管理者業務の基準」ならびに「指定管理者業務の基準 別添資料」に記載された環境維持管理業務を着実に遺漏なく実施します。	実施	実施		【成果】 ・計画通り実施しました。 【課題】 ・部分開室、全館始動による来館者の増加に対応し、適切な環境を維持していくことが重要です。	
			■利用者がいつでも快適に施設を利用できるような環境を整えます。	実施	実施			
			■感染症対策のため、日常的な清掃を徹底し、手洗い等について来館者に喚起します。	実施	実施			
	2	廃棄物処理及び環境への配慮	■施設から発生する廃棄物の発生抑制に努めます。	実施	実施			
			■法令に従い、浮遊粉じん・二酸化炭素・一酸化炭素・温度・相対湿度・気流の空気環境の測定を2か月に1回実施します。	実施	実施	大規模改修工事終了後から開始(1、3月)		
			■収蔵庫の室温や湿度等、空調管理を徹底します。	実施	実施			
3 保安警備業務(事業目標4)		保安警備業務	■「指定管理者業務の基準」および「指定管理者業務の基準 別添資料」に示された保安警備業務を着実に遺漏なく実施します。	実施	実施		【成果】 ・計画通り実施しました。 【課題】 ・継続的な対応が必要です。	
4 防火・防災等(事業目標4)		平常時の防災対策	■消防法に基づき、甲種防火管理者を選任した上で防災計画書を作成し、所轄の消防署に届け出ます。	実施	実施		【成果】 ・計画通り実施しました。 【課題】 ・新年度等の職員・スタッフが入れ替わるタイミングを踏まえて、継続的な研修や訓練の実施が必要です。	
			■自衛組織を結成し、日常の防火・防災に努めます。	実施	実施			
			■横浜市防災計画に基づき、対応マニュアルをあらかじめ作成します。	実施	実施			
			□防火・防災訓練の実施	年2回	7月・3月実施			
			■AEDを導入し、適切な管理及び職員への十分な操作研修を実施します。	実施	実施			
5 緊急時の対応(事業目標4)	1	緊急時(災害発生時)の連絡体制・役割分担	■緊急時の連絡網を作成し、市に提出します。	実施	実施		【成果】 ・計画通り実施しました。 【課題】 ・適宜情報を更新し、職員に周知を図ることが重要です。	
	2	災害発生時の取組	■横浜市において災害対策本部等が設置された場合は、その指示に従うとともに、横浜市と協力し災害対応に協力します。	実施	実施			
			■災害が発生した場合は、来館者の安全確保を最優先に対応します。災害の内容や規模に応じて、また横浜市の方針に基づき、すみやかに広域避難場所や帰宅困難者一時滞在施設に誘導できるよう職員に周知します。	実施	実施			
6 その他施設管理に関する事項	1	みなとみらい21地区での協議・調整	■施設管理に際して、必要に応じてみなとみらい 21 地区関係者と協議・調整を行います。	実施	実施	ヨコハマミライト2023協力(11～2月) ヨルノヨライトアップ協力(12～1月) アースアワー2024in横浜協力(3月)等	【成果】 ・施設管理に係る関係者との協議・調整を行いました。 ・必要な有資格者を適切に配置しました。 【課題】 ・設備運転監視業務委託が入札不成立となり、電気主任技術者(3種)は派遣職員を配置しています。引き続き、必要な有資格者を確保していく必要があります。	
	2	施設の管理を行う上で必要な資格者の配置	□電気主任技術者(3種)(1名)	配置	配置			
			□建築物環境衛生管理技術者(1名)	配置	配置			
			□警備員指導教育責任者(1名)	配置	配置			
			□甲種防火管理者および防災管理者(1名)	配置	配置			

令和5年度 横浜美術館 指定管理者 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

□:定量的指標 ■:定性的指標を表します。

評価項目			令和5年度計画		実施状況		評価		
IV長期休館中の業務	指定管理者提案(要旨)		取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価	
1 大規模改修による長期休館を活かし、横浜美術館のプレゼンスを向上(事業目標6)	1	コレクション・データベース等の整備と公開等	データベースの充実	□日英2言語による収蔵作品解説の提供	(再掲)	(再掲)	【成果】 ・「やどかりプログラム」として「横浜美術館コレクションでめぐる物語の世界」「横浜美術館建築ガイド」「ヨコハマ・アートワーク」の3シリーズをオンラインで実施しました。 ・市内18区への出張講座「横浜出前美術館」では、収蔵品に使われた技法をもとにエドューケーターがプログラムを企画実施しました。 ・教育機関、企業、団体との連携による造形および鑑賞プログラムを継続実施しました。 ・COVID-19の5類指定により4年ぶりにアウトリーチ事業を再開しました。また病院や医療施設、また市内大学との連携による高齢者施設でのプログラムについては、一部オンラインもとりいれながら実施しました。 【課題】 ・令和6年度以降の教育普及関連事業、とりわけ「子ども」「子育て」世代、および多様な背景を持つ方々に向けた充実したプログラム実施にあたっては、専門性を持った人材の確保および事業を安定継続するための財源の確保が課題です。 【評価できる点】 ・仮事務所のPLOT(プロット)48を拠点とした「やどかりプログラム」や、市内の小中学校や医療施設等でのアウトリーチを積極的に実施し、それぞれ休館中の3年間で掲げた目標を大きく上回る実績をもたらしました。 ・リニューアルオープンが近づくにつれてニュースメディア等への露出が増加し、特に1月以降では計450件以上になるなど、ウェブメディアを中心に幅広く取り上げられました。横浜美術館の活動を広く知っていただくことにつながったことを評価します。 ・令和6年度に控えた美術作品の外部倉庫からの移転に向け、委託事業者を選定したほか、屋外作品をいち早く再設置するなど、作品移転を計画的に行えています。 【更なる取組を期待する点】 ・長期休館中、リニューアルオープン後を見据えて行った業務について、きちんと活かしていけるよう努めてください。 ・中でも、コレクション・データベースに関連する事業や教育普及事業に関連して蓄積したノウハウ等は、今後も継続性を保ちながら整理・活用していくことを期待します。		
			作品の露出	■コレクション・データベースおよび作品解説の日英2言語での公開(6-定性②)	実施	実施			日英2言語で公開実施(延べ469点)
	2	リニューアルに向けた広報	メディアへの露出の把握	□ニュースメディアへの露出(6-定量①)	300件	1,147			
			再オープン時の横浜美術館に関する評価コメントの収集	■事業評価のみではなく、「基本的な方針」等についてのコメントを収集します。(6-定性①)	実施	実施			リニューアルオープン時の評価コメントの収集(3月)
			ウェブの活用	■予約システム、決裁システム、VR等デジタルコンテンツ、訪日外国人向けサイト等の開発を進め、集約し発信するウェブサイトを見直し、公開します。(6-定性③)	実施	実施			再開館に向けウェブサイトをリニューアル(11月)特設ページ開設(3月)等
	3	リニューアルオープン後に向けた準備	具体的な取組の準備	■コレクション、展覧会、教育普及、施設運営、地域連携等に関する具体的な取組の準備を行います。	実施	実施			第8回横浜トリエンナーレ開幕(3月)
			第8回横浜トリエンナーレの開催	■第8回横浜トリエンナーレに向けた準備を進め、開催します。	(再掲)	(再掲)			
	4	改修後の横浜美術館への移転		■仮拠点から美術館への事務所機能と備品等の移転を滞りなく行います。	実施	実施			大規模改修工事完了(11月)、美術館運営開始(12月)
				■コレクションの外部倉庫から美術館への移転準備を行うとともに、状況に応じて移転を進めます。	実施	実施			収蔵作品の収蔵庫への蔵置開始(3月)
	5	令和3年度、令和4年度を含む取組		□コレクション国内巡回展(6-提案者①) ・令和3年度・令和4年度合計:3回	2回 (3年合計)	R3-4実施			R3/4-6月,11-1月 トライアローグ展巡回@愛知、富山 R4/4-6月横浜美術館所蔵 日本美術院の作家たち展@郡山市立美術館
				□新進アーティストの創造活動支援事業 ・令和3年度・令和4年度合計:2回	2回 (3年合計)	R4-5実施			改修工事壁面を活用したWall Project実施(～7月)
				□ワークショップ(6-提案者②) ・令和3年度・令和4年度合計:91回	80回 (3年合計)	106回 (3年合計)			R5年度15回実施 横浜美術館ボランティアによるオンラインプログラム(5～6月) 「やどかりプログラム」わくわく紙遊び(7～8月)ファイナルトーク(10月)等
				□アウトリーチ(6-提案者③) ・令和3年度・令和4年度合計:68回	40回 (3年合計)	87回 (3年合計)			R5年度19回実施 横浜出前美術館 緑区(5月)、瀬谷区(6月) 若者支援プログラム@南部ユースプラザ(2月) ハート・トゥ・アート 計4回@神奈川県立こども医療センター、市内幼稚園等 芸術文化教育プラットフォーム 延べ8回@市内小中学校

令和5年度 横浜美術館 指定管理者 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

□:定量的指標 ■:定性的指標を表します。

評価項目			令和5年度計画		実施状況		評価	
V収支	指定管理者提案(要旨)		取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 指定管理料のみに依存しない収入構造(様式20)	1	外部資金の活用	■公的補助金、事業単位で申請する民間助成金等の調達に積極的に取組みます。	実施	実施	R6年度文化庁補助金申請(2月)	【成果】 ・文化庁補助金の活用やオンラインショップの運営のほか、第8回横浜トリエンナーレ開幕に合わせて一般駐車場・バス駐車場の運営を開始し、収入の確保に努めました。 【課題】 ・引き続き多様な財源の確保や効率的なファシリティマネジメントに取り組む必要があります。 ・条例に定められた利用料金を踏まえ収支改善を図るために、稼働率向上や事務効率化が課題となります。	【評価できる点】 ・文化庁の文化観光拠点計画に関連する補助金を最大限に活用し、休館中の事業やリニューアルオープンに向けた取組などへ幅広く活用したことを高く評価します。 ・年間を通じてオンラインショップの運営を行ったほか、リニューアルオープンに合わせていち早く駐車場を再開するなど、多様な収入源の確保に努めました。 ・横浜美術館に事務所を移転後、リニューアルオープンまでの間は空調の使用を最小限にとどめて節電に励むなどして、支出の抑制を図りました。 【更なる取組を期待する点】 ・予算積算の精度を高め、予算と決算の乖離が縮小されることを望みます。 ・大規模改修に伴う機器類の更新等により、直ちにランニングコストを算定することは困難な状況が想定されますが、引き続き経費削減努力を続けるとともに、年間を通して開館した際のシミュレーションを綿密に行うなどして、適切な管理経費が執行されることを期待します。 ・ユニークベニューとしての活用など、指定管理料や入館料以外の収入増の取り組みに期待します。
	2	展覧会	■「幅広い層へ訴求する展覧会」の開催や、その他の展覧会をこれまで以上に収支のバランスを意識して開催することにより、収入を確保します。	実施	実施	横浜トリエンナーレ開幕(3月)		
	3	ミュージアムショップおよびカフェ	■運営形態の見直し、商品分析等により収支の改善を図ります。	実施	一部実施	カフェ、ショップの運営事業者と基本契約を締結		
	4	駐車場及びレクチャーホール	■稼働率向上を図り、収入確保に努めます。	実施	一部実施	駐車場運営開始(3月)		
2 経費削減等効率的運営の努力(様式20)	1	管理運営費推移の要因分析(事業目標4)		■予算、仮決算、決算の差異の要因分析を行い、今後の分析にあたって観点を明確化します。(4-定性②)	実施	実施	【成果】 ・節電等による支出の削減に取り組みつつ、リニューアルオープンに向け必要な経費を適切に執行しました。 【課題】 ・全館始動前で実績が無い中、収支均衡を図っていくためには、細やかな執行管理と積算数字の精査による予算精度の向上が重要となります。 ・令和5年度入札不成立となった業務委託について、早期に委託契約の締結を図る必要があります。また、経費執行可否を適切に判断していくことが課題です。	
	2	収支バランス(事業目標4)	収支バランスの管理	■展覧会事業費、人件費、施設管理費等、影響の大きい支出項目を重点的に管理して、収支バランスの均衡化に努めます。	実施	実施		
			収支バランスの推移	□単年度での収支均衡が困難な場合に、5年間での均衡を達成(4-提案者①)	均衡／5年	支出削減		
VI各種計画書・報告書の作成及び業務評価	業務の基準		取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	
	1	日報、月報の作成・管理		□管理運営月報・完了確認表を作成し、モニタリングにおいて報告	実施	実施	【成果】 ・市と連携・協議しながら業務を遂行しました。 【課題】 ・館の運営に係る課題を市と共有し、連携して課題解決を図ることが重要です。	
	2	業務計画書・業務報告書の作成・管理		□業務計画書・業務報告書の作成	実施	実施		
	3	業務評価の実施		□自己評価	実施	実施		
VIIその他	選定要項		取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	
1 市の重要政策課題への対応(様式23)	1	個人情報の保護	■個人情報の保護に関する法令等を遵守し、個人情報を適正に扱います。 □職員向けに個人情報保護に関する研修を実施します。	実施	実施			
			■個人情報取扱いマニュアル等に基づき、個人情報の取扱いを適切に行います。	実施	実施			
	2	情報公開	■横浜市の要綱や標準規定等に準拠して作成した当財団の「情報公開規程」に従って、公正で透明性の高い運営を担保します。	実施	実施			
			■必要に応じて当財団の顧問弁護士に相談できる体制を構築します。	実施	実施			
	3	人権尊重	■ヘイトスピーチ解消に向けて、不適切な施設利用がないよう努めます。	実施	実施			
			■ハラスメント研修や通報制度を通じて、職場環境を維持します。	実施	実施			
			□継続的かつ計画的に人権研修を実施します。	年1回	実施			
	4	環境への配慮	■法令に則り、産業廃棄物を適切に廃棄します。	実施	実施			
			■再生資源の分別を徹底し、ごみの排出量を削減します。	実施	実施			
			■照明のLED化により、電力消費量を削減します。	実施	実施			
			■デジタル化を推進し、紙の使用量を削減します。	実施	実施			
	5	障害者差別解消		■障害者差別解消法および横浜市の関係方針に則り、あらゆる場面で不当な差別的取扱いを許さず、合理的な配慮に努めます。	実施	実施		
6	男女共同参画		■男女共同参画社会基本法および横浜市の関係方針に則り、あらゆる人が意欲に応じて多様な分野で活躍できるよう努めます。	実施	実施			
7	市内中小企業優先発注		■横浜市中心小企業振興基本条例を踏まえ、可能な限り市内中小業者への発注に努めます。	実施	実施			
2 その他	1	保険及び損害賠償の取扱い		■施設賠償責任保険、動産総合保険、レジャー・サービス施設費用保険へ加入します。	実施	実施	【成果】 ・計画通り実施しました。 【課題】 ・引き続き、市との連絡体制を維持し、速やかな情報共有を図ることが重要です。	
	2	関係法令等の遵守		■業務を遂行する際に、定められた関係法令を順守します。	実施	実施		
	3	市及び関係機関等との連絡調整		■事故や不具合時は速やかに報告し、随時共有します。	実施	実施		

□:定量的指標 ■:定性的指標を表します。

評価	
自己評価	行政評価
【成果】 ・第3期指定管理期間に掲げた「みなとモデル」の3つの柱「多様性」「持続可能な活動」「健全な経営」を念頭に、3月のリニューアルオープンさらに令和6年度の全館始動に向け館を挙げて取り組みました。 ・大規模改修工事の延期に対応し、事故無くスケジュールどおり事務所機能移転及びリニューアルオープンを実施しました。 ・新型コロナウイルス感染症など社会情勢の変化を注視しながら、ADと共に第8回横浜トリエンナーレの準備を進め、オープニングでは海外からも多数の来賓を迎えました。 ・大規模改修工事に伴う休館期間においても、やどかりプログラムやアウトリーチの実施、工事仮囲いを利用したNAP、SNS等を活用した広報など、市民サービスの提供や美術館活動の発信を継続して行いました。また、企業連携・地域連携でも、これまで培ってきたネットワークの継続・発展に努めました。	・令和5年度は、長期休館中の活動を継続させつつ、横浜美術館の大規模改修が終了し、事務所の移転を経て第8回横浜トリエンナーレの開幕によりリニューアルオープンするという、非常に動きの多い1年となりました。 ・そのような中、長期休館中の業務として前年度から引き続き、アウトリーチや仮事務所におけるワークショップ・トークイベントを質量とも充実した内容で行いました。事務所移転に向けた準備も並行し、それぞれ両立させたことを評価します。 ・所蔵作品は上述のとおり令和5年度に大幅に増加し、画像公開は当初目標を約2,000点上回る合計約13,500点に達し、令和4年度までの収蔵作品を網羅する規模に達しました。また、日英2言語による作品解説も倍近くに増え、いずれも長期休館を有効に活用した取組となりました。 ・事務所移転から約3か月という準備期間で第8回横浜トリエンナーレが開幕したことも特筆すべき成果となりました。長期にわたる綿密な調整なしには果たし得なかったことであり、高く評価します。 ・事務所移転後、発生した不具合等に対して速やかに対処し、施設運営に支障をきたすような障害もなく着実に施設管理を行っています。 ・収支では、前年度に引き続き文化観光拠点計画で文化庁から多額の補助金を得られました。また、駐車場の早期の再開など、収入増に向けた取組を着実に進めました。 ・令和6年度は、11月にはアトリエ、美術図書室、ミュージアムショップ、カフェがリニューアルオープンし、来年2月には「おかえり、ヨコハマ」展とコレクション展の開催、レクチャーホールの利用開始により、いよいよ通常開館の体制となります。絶好の広報機会として積極的かつ多面的な発信を期待します。 ・6月の横浜トリエンナーレの閉幕後、駐車場以外はしばらく閉じることになり、最後に残された実質的な休館期間として大変貴重な時間になります。横浜トリエンナーレの開催により得た成果や課題も検証しながら、適切なスケジュール管理のもと、全館始動に向けて準備を進めてください。 ・全館始動後はアトリエ事業や美術図書館等を含めて、多くの方々の期待に沿える活動を展開し、市民や横浜美術館を訪れる方々にとってかけがえのない存在であり続けることを期待します。 ・休館中に培ってきた様々な構想やネットワークを駆使し、障害(バリア)や国境(ボーダー)も飛び越えてあらゆる人を歓迎し、どんな人の居場所にもなる「ひらかれた美術館」となることを強く期待します。

【課題】
・ミュージアムメッセージに示した多様な文化や価値観、社会情勢や環境の変化などに柔軟に対応しながら、事業における質的水準の高さと収支バランスを両立させることが重要です。このため、多様な財源の確保や効率的なファシリティマネジメントが課題となります。
・限られた人員体制の中で館の効率的な運営を行うために、中・長期的なマネジメントや人材育成が不可欠です。また、引き続き専門人材の確保に取り組む必要があります。
・政策経営協議会などを通して市と課題や政策を共有し、「子育てしたいまち」「都心臨海部の賑わい創出」等の政策に寄与するよう、連携をさらに深めていくことが重要です。
・令和6年度の部分開室や全館始動に向けて、今後、具体的な準備・調整を着実に進めていく必要があります。